

令和7年11月20日

伊達市議会議長
菅野喜明様

議会広報広聴特別委員会
委員長 小嶋寛己

議会広報広聴特別委員会報告

伊達市議会委員会条例第36条の規定により、次の通り報告します。

1. これまでの活動経過等

本市議会では平成25年に議会広報広聴特別委員会、そして平成26年に議会広報特別委員会が設置され、議会の広報機能および広聴機能の拡充等について調査を行ってきた。平成後期に設置された上記特別委員会の調査報告においては、2回とも「広報機能と広聴機能を一体化した委員会の設置」及び「常任委員会への移行を検討することの必要性」について言及している。

しかし、その後の伊達市議会では、広報機能と広聴機能が一体化した委員会は設置されず、また、既存の議会広報委員会が常任委員会に移行することもなく、約10年の歳月が経過している。

そこで、令和6年9月定例会議において、6人の委員で構成する議会広報広聴特別委員会（※以下、本委員会）を設置し、あらためて議会の広報・広聴機能の強化や一体化、常任委員会への移行の必要性等について、調査を行うこととした。

本委員会では、先進的な取り組みをしている議会の視察等を行い、その事例について調査を進め、それをどのように反映していくべきか活発な議論を重ねてきた

2. 先進地視察及び調査事項等

本委員会では、会津若松市議会および一関市議会の視察を実施した。

なお、会津若松市議会及び一関市議会が広報機能と広聴機能を一体化した委員会を設置している点や、一関市議会の広聴広報委員会が常任委員会として活動している点も加味して視察地を選定している。

会津若松市議会では、市民との意見交換会から得た意見をもとに政策討論会を実施し、政策を立案した上で執行部に提言していく政策サイクルや、その政策サイクルに対する議会広報広聴委員会の関与等について調査研究を行ったが、それに加えて、令和 6 年度から実施されている「議会モニター制度」の運用状況に関する知見も得られた。

「議会モニター制度」は、議会に対する市民の意見を広く聴取し議会運営に反映させるために、あらかじめ議会に対して意見を述べるモニターを団体推薦や公募によって定めておくものであるが、これは広聴機能の強化そのものである。

一関市議会では、「見やすく、読み切れる、市民参加型の広報紙」をコンセプトにした議会だよりのリニューアルや、SNS を活用した議会情報の発信、委員会審査に関する広報のあり方等について調査研究を行った。

また、一関市議会では、広報機能及び広聴機能を有する委員会を、常任委員会とするメリットについても調査研究した。

常任委員会として活動するメリット等については、早稲田大学デモクラシー創造研究所が実施する「地域経営のための議会改革度調査 総合ランキング」において全国 1 位の登別市議会及び全国 2 位の浜田市議会にも質問状を送付して回答を得ている。

3. 本委員会における結論

広報機能の強化について、SNS を用いた議会情報の発信や議会ホームページにおける委員会記録の公開等は、広報機能の拡充につながり、開始のハードルも低いため、速やかに実施すべきである。

また、「見やすく、読み切れる、市民参加型の広報紙」を目指し、議会だよりの掲載内容の精査や表紙の写真またはイラストの公募等を念頭に、議会だよりのリニューアルを検討すべきである。

次に広聴機能の強化について、常任委員会単位で行う意見交換会と並行して、概ね小学校区単位で開催する班別方式の意見交換会の再開を検討すべきである。

また、意見交換会で得られた意見を(仮称)議会広聴広報委員会に整理・検討させ、政策形成につなげていく努力が必要である。

議会モニター制度については、伊達市議会基本条例にも議会モニターの活用に関する記述が存在することから、要綱等を整備した上で、(仮称)議会広聴広報委員会の所管として速やかに実施すべきである。

以上の要素を踏まえ、市民との意見交換会や議会モニター制度等の広聴活動により得た意見をもとに、市民がどのような事柄に関心を持ち、どのような議会広報を求めているのかを連続的に判断し、それを広報活動に反映していくためには、やはり議会の広報機能と広聴機能を一体化した委員会である(仮称)議会広聴広報委員会の設置が必要であるとの意見で全委員が一致した。

一関市議会及び登別市議会、浜田市議会から聴取した、常任委員会として活動することによるメリットについては、「委員会活動に関する予算の割り当て」や「活動の幅の広がり」等があったが、3つの市議会で概ね共通していたのは「委員の意識向上」であった。

この点を踏まえ、現在の議会広報委員会と比較して業務量も責任も大幅に増加する(仮称)議会広聴広報委員会は、委員の意識向上も必須であることから、常任委員会とすべきであるとの意見で全委員が一致した。